女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー

ームハマド・ユヌス「グラミン銀行総裁から学ぶこと」ー

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

東京の渋谷のすぐ近く、表参道にある青山学院大学の前に国連大学(正式には「国際連合大学」、英語では United Nations University といいます。)があります。そこで、先週の土曜日に「女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー」というシンポジウムがありました。読売新聞社と NPO 法人「女性人権機構」、外務省、国連大学の共催で行われました。

そこに、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌスさんがいらっしゃって、すばらしいお話をして下さいました。そこで、今日の「開倫塾の時間」では、その感動を皆様と一緒に分かち合いたいと思い、ムハマド・ユヌスさんのお話を少し紹介させていただきます。

２．女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー　ームハマド・ユヌス「グラミン銀行総裁から学ぶこと」ー

(１)ムハマド・ユヌスさんは、バングラデシュにあるグラミン銀行の総裁をなさっている方です。ノーベル平和賞を受賞なさった功績を少し紹介します。ムハマド・ユヌスさんが住んでいらっしゃるバングラデシュは、ムハマドさんが大学で経済学の先生をなさっていた 1974 年頃に非常に大きな水害に見舞われ、何十万人にものぼる方々がお亡くなりになりました。ムハマド・ユヌスさんは、その当時、学生たちに、経済理論というのはあらゆるタイプの経済問題を解決してくれるものだと一所懸命に教え、エレガントな理論に夢中になっていました。しかし、教室から一歩外に出て現実の世界を目にすると、どのようなよい人も無慈悲に踏みつけられているのを見て、打ちのめされたそうです。生活状況が非常に厳しくて、一つかみの食べ物すら手に入れることのできない人たちがたくさんいて、そのためにお亡くなりになった方も多いことを見たからです。

(２)そこで、ムハマドさんはハッと気がついて、実際に村ではどのような生活をしているのかを知るために、学生たちと一緒に村に調査に行きました。ある村では、本当に生活が厳しくて、42 世帯もの人々が、お金を貸す人からお金を借りていたそうです。実際にどのくらいのお金を借りていたかを調べると、42 世帯合計でアメリカドルで 27 ドルにも満たない金額だったそうです。失礼な言い方ですが、少ない金額しか借りていなかったにもかかわらず、実態は非常に厳しい生活であったそうです。

そこで、ムハマドさんは、27 ドルを渡して、これを 42 世帯の人たちに貸してあげるようにしました。これで借りているお金を返し、その上で自分たちで作っているものを自由に少しでも高く売れるようにする、つまり生活の自立への援助をしたのです。それがきっかけで、小さいお金（少額）を女の方や貧しい方にお貸しするようになったということです。

(３)ムハマドさんがおっしゃるには、男の方に小さなお金を貸すと乱暴な使い方をしてしまうそうです。例えば、それでお酒を飲んだり、友達におごってしまったりして簡単に使ってしまい、あっという間になくしてしまうのだそうです。

しかし、女の方に小さなお金を貸すと、まずそのお金で借金を返すのだそうです。そして、自分で一所懸命仕事をし、得たお金で、子どもたちを学校に行かせます。子どもたちが教育を受けられるようにしてから、働いて得たお金を小さな家を造ったり食料を得たりする代金にあてる。このように、非常に堅実なお金の使い方をします。お金を返せない人はほどんどいません。99％の方は必ず返すそうです。小さなお金ですから、一所懸命こつこつやれば返せます。そうすると、自立もできるようになります。それまで村の人たちが借りていたお金は高い金利のものが多く、中には 10 日間で 10 ％の金利を取る人もいたそうです。借りているお金が小さいので、金利が高くてもよくわからなかったり、読み書きのできない方も非常に多いので、よくわからないうちにお金を借りてよくわからないうちに返し、よくわからないうちに大変な状況になってしまうということも多かったようです。

(４)そこで、ムハマドさんは、そのような状況を打ち切るために、グラミン銀行を設立しました。そして、グラミン銀行から小さなお金を借りて、村の人たちにとっては大変な借金である高い金利のお金を返させるようにしました。また、自立のためにお金を使えるようにしました。これで、たくさんの方が助かったそうです。このようなことが認められて、ムハマド・ユヌスさんはノーベル平和賞を受賞なさいました。小さなお金を貸すことをマイクロ・クレジットというそうですが、この運動は世界中に広まりつつあるそうです。

(５)今、小学校や中学校に行っている子どもたちを、次に高校や大学に行かせるための student　loan（スチューデント・ローン）、つまり学費を貸すようにしたり、3 万円か 5 万円で小さな家が建つので、小さな家を建てるためのローンを貸すような仕事もしているそうです。これは、バングラデシュの方々が自分自身の力で立ち上がるための大きな貢献となっています。

３．おわりに

今日は、国連大学で開かれた「女性は格差をなくせるかーアジアで日本でー」というシンポジウムで、バングラデシュのグラミン銀行総裁を務めるムハマド・ユヌスさんのお話をお聞きしましたので、皆様に御紹介させていただきました。

皆様はどのようにお感じになられたでしょうか。

－ 2008 年 11 月 20 日加筆－